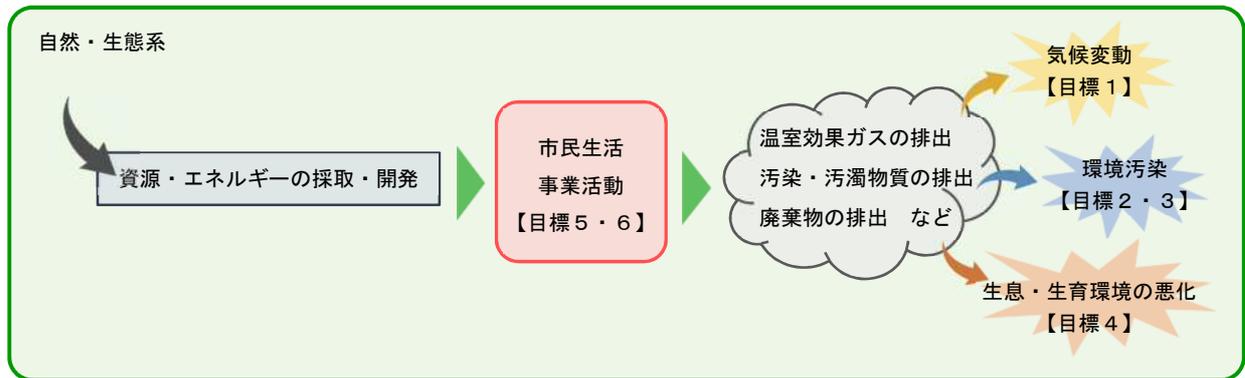


目指す環境像について

1 環境問題の捉え方

- ・現行計画は、本市の実態や国内外の動向を踏まえつつ、市内で行われる社会経済活動に起因する環境汚染・負荷を低減するための取組を定めていますが、社会経済活動がグローバル化している現代においては、環境問題を地域だけの問題として捉えるのではなく、国際的な動きとも整合を図りながら地球規模の問題として捉える必要があります。このためには、生じる環境汚染・負荷を低減することにより影響・被害を軽減させるという下流・出口側からの視点の取組に加え、どのような資源・エネルギーをどのように消費して社会経済活動を行うかという上流・入口側からの視点の取組が必要と考えられます。
- ・人類が豊かに生存し続けるためには、環境を犠牲にした社会・経済は成立し得ず、現世代が将来世代に豊かな環境を確実に継承していくという姿勢をもち、社会・経済システムを環境と調和したものとなるよう取り組んでいきます。



【次期計画】上流・入口側からの対策

資源・エネルギーは社会経済活動において必要不可欠なものであり、採取・開発が自然・生態系の再生産能力を超えないよう、どのような資源・エネルギーをどのように消費するかも含めて考える必要がある。

【現行計画】下流・出口側からの対策

自然・生態系の浄化能力を超えないよう環境汚染・負荷を低減するための対策、またはその原因となる市民生活・事業活動を環境配慮型にしていくことが基本的な考え方となっている。

2 目指す環境像

- ・3つの案について検討を行っており、案1は現行計画の環境像を据え置くもの、案2は取り組み姿勢を示すもの、案3は取組により目指すまちの姿を示すものとしています。

案1 ECO未来都市 あまがさき

- ・現行計画における目指す環境像を据え置くもので、環境を「守るべきもの」から生活を豊かにするために「活かすもの」とし、市民一人ひとりのライフスタイルの変革や環境関連産業の活性化などを進め、市内のあらゆる場面で環境が活きづく持続可能なまちを目指すという想いが込められている。
- ・本市の産業界5団体（尼崎商工会議所、尼崎経営者協会、協同組合尼崎工業会、財団法人尼崎地域・産業活性化機構、尼崎信用金庫）と尼崎市がより良い環境を次世代に引き継いでいくことを意識した産業活動を行っていくために、一層の努力を傾ける契機とすることを目的に表明した共同宣言の名称（「ECO未来都市・尼崎」宣言～環境の活きづくまちは美しい～）と整合が図られているため、産業都市である本市において産業界との連携は図りやすいと考えられる。
- ・一方で、「ECO未来都市」という文言は抽象的であるため、補足説明がないと具体的な環境像をイメージしにくい可能性がある。

案2 豊かな環境を将来に継承するまち あまがさき

- ・将来世代が享受する環境の恵みに対して、現世代が責任をもち、豊かな環境として共有し、引き継いでいくイメージを示す。
- ・環境は現世代と将来世代で共有しているものであり、現世代のニーズを満たせるような環境を目指すだけでなく、将来世代のニーズも満たせるような環境を意識しながらまちづくりを進めていく。

案3 環境と調和した持続可能なまち あまがさき

- ・市民生活・事業活動に由来する環境汚染・負荷を低減するとともに、社会・経済システムを環境と調和したまちに変えていくイメージを示す。
- ・本市は人口の集中や産業の集積、交通網の発達などにより都市化が進んでいるが、都市を維持するために市外からの資源・エネルギーを消費し、環境汚染・負荷を生じさせている。市民生活・事業活動を維持していくためには、環境と調和した社会・経済システムや都市の構造などが必要となる。